

0 1 2 3 4 5 6 7

20

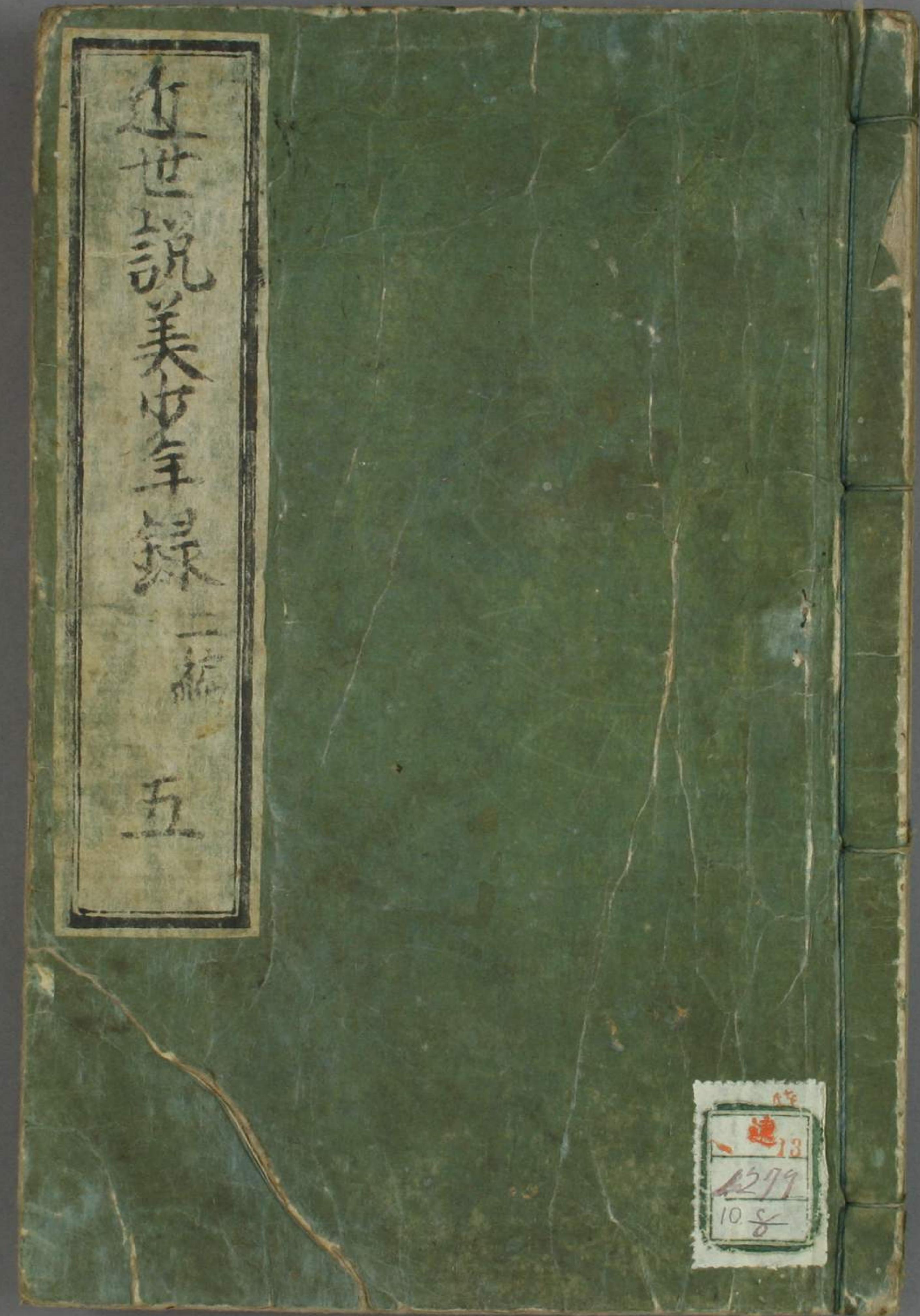
JAPAN  
Takemoto

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

近世說美年錄

一編

五



1279  
10

利田

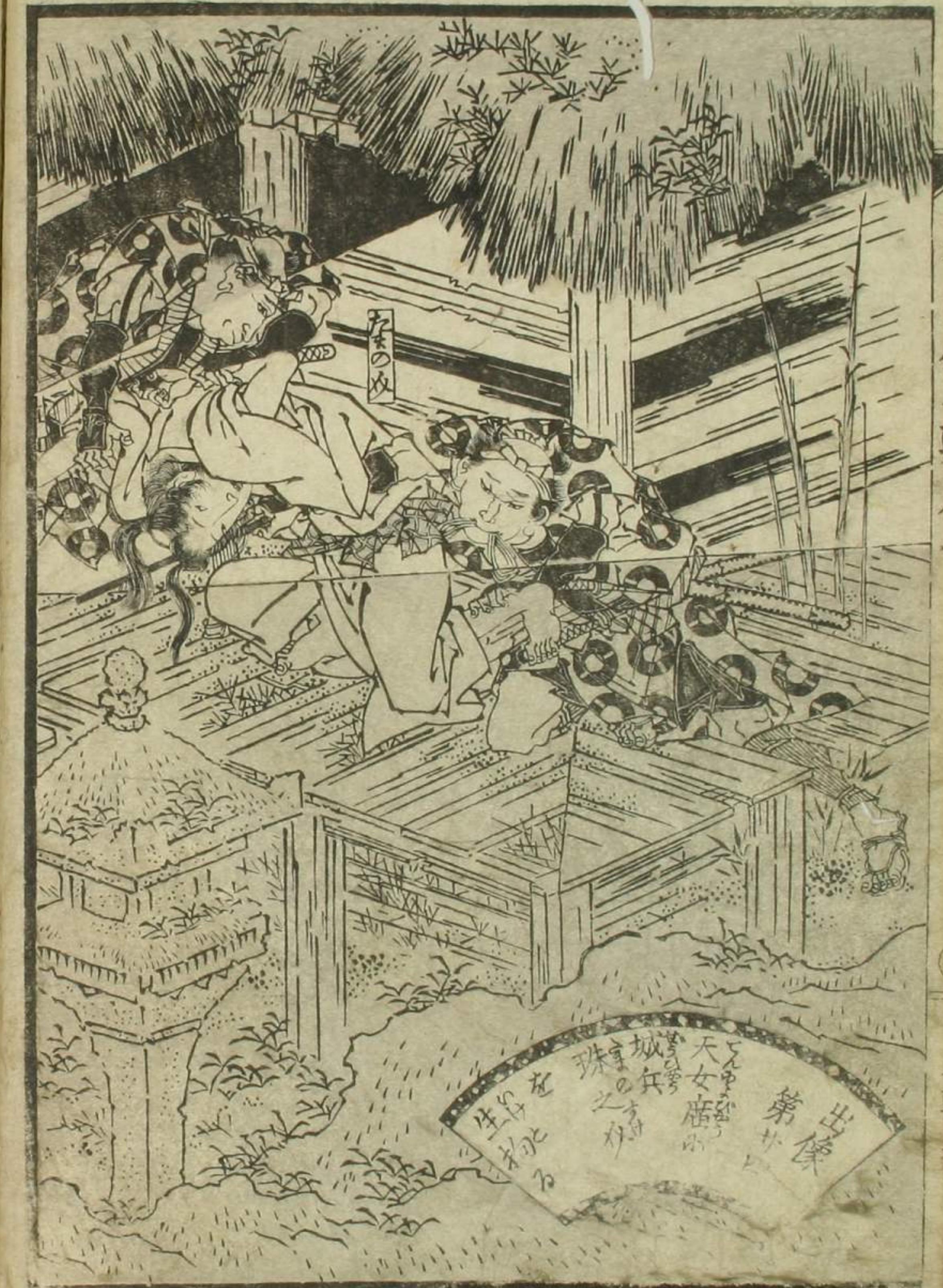
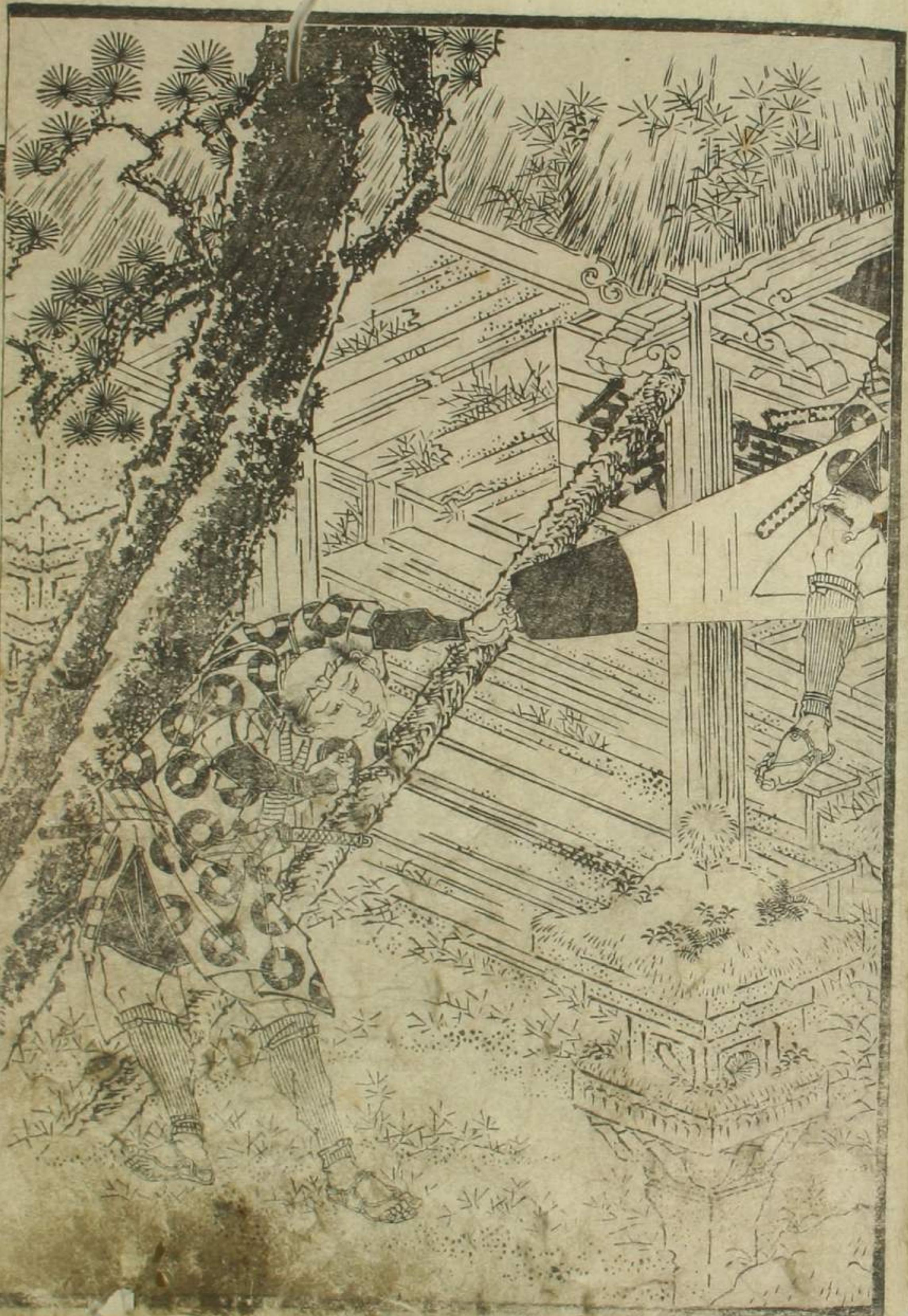
近世説美少年錄第二輯卷之五

東都 曲亭主人編次

第十九回 茂林社小惡少捕らぬ  
三石城小叔侄再會也  
再說末松珠之父、嚮小危窮ふ及び折脱れ難て大洋へ身を捨てを  
浮む瀕のあれ荒磯か流を寓て死する工を流れど入も遇と言向ん浦の  
苦屋もすやうが。覚束とも辻々くゆくと幾十町ほど知らぞ夜を最く  
深たる比前路遙ふ燈火の光隱ると不意に幽く原来那首不への性むら喧  
覺一宿りを投げて一椀の飯を乞ふぐ地方の名をも知らぬとしが疲勞れ  
足も進まぬ。辿り著てあまことある人の家へあむて茂林の中のと舊日  
な。社小魚せ一常夜燈の樹の間を漏すと見るを守る人もあむ。は

近つて月光あ且その檐を瞻仰る。辨才天と書くる。白字の匾額あり。下  
あの社の造りあるも、皇圓の神社佛閣が異る。このうやうがたも、猶外嶋ある。  
みるにとくなく猜度。建て簾子と推ひて進み入り。恭く合掌。向南膜摠  
持能與辨才天。又窮阨を救せしと數回祈念して。又彼此とぞす。神戸帳の  
ほど不献供する。一土器の夏桃と野菓の啖残した。一枚の餅あり。久く餓そ  
堪ざかるふ。死物めと遠く。お卸して是を食ふ。お日來の美味を飽きず。やる  
時お何まれか。皆甘く。とておもてられ。要時も置ぞ早小盡。と聊饑を凌  
ぐ。坐て曉る。候程か。おもへ思惟る。おもへ乾淨る。茂林の中  
かあれる。神前ふ供物あり。常夜燈え置れ。おもへ人家は遠く車の音。昼  
詣る人もあらず。天も明がとて。哀しお告無。情あり。人の資本あらず。あらゆ  
せん。と尋思。身ふる。彪脚を拂ふ。果て。腰を隨ふ。疲勞く。熟睡を

きり。浩然ふ夜行の雜兵。兩三交名非情の備え。爲る。一。古城外寺。村  
落と。彼此ともち巡り。ゆ。事件の辨才天の社のほうを過る。程。人の聲  
声せ。忽地お驚く。怪一と見ゆ。立よ。準備の燈籠。も。おれ果てく  
箇の少年。熟く睡す。あられ。原来癖者。ごと。見れ脱げ。と潛め。と  
跣ひ。と走り。押へ。索を。珠の如き。も。雜兵。おと。紛められ。あら什  
麼らふ。と。うり。且。駭を。且。呆れ。夢うむ。多苦。も。煩。方。術考  
ある。某犯せ。罪あ。と。叫び。聽で。異口同音。お這偷見。悍々。面の色  
曉れ。れど。年少。似け。膽太。癖者。あら。守り。守り。も。里達。茂林の中。古  
社。所。おと。熟睡。おと。抑。安。何處の人。を。せり。向。珠の如き。と。まと  
告難。それと。おと。一句。おと。黄檗。おと。亞子。おと。只。脣。を。動く。暗。暗  
の。おと。おと。雜兵。おと。冷笑。おと。の。身の。出處。おと。おと。向。おと。散。間。



珠宮城  
天女  
兵之  
生を  
水

第  
出  
集

者ああらん。誘城中人牽ひ還り。御謝断ハ任へらん。まこと索より  
詰て食共侶あやく程未途ゆく天明す。却説件の雜兵ホハ珠を以て牽ひモリ  
アミ。緯云々と候え。城主の娶を俟け。ふの貢民の訴の生平。えも当ス也。  
けれ。城主のそひ稍果。未の比珠之从官所の海の内。牽ひモリ。と  
雜兵木の間。茂林の辨天の社ゆく。額捕る緯の趣旨様をと達モリ。  
緒又具ふ述け。城主の後を領を。毛利辨者と呼ゆ。珠を以て首右見ら。  
入ひその貌。邪正を定め。されど。身のうゑも  
賤い。何の故。夜をあわ。古廟の中の獨臥する。抑當國の人の子。故又他御  
よ。來づ。のち。その身の素生姓名を。眞告より。ふぞ。とある。自れ。被  
す。うち。ある。沈吟。下車。板子。携り。潮の任。流れ。洪波。打揚られ。の地  
浦。寓ると。さう。一旦。息絶。ひし。又幸ひ。更生。四下。さす。古屋。あだ。  
某村。あれども。なく。二親を喪ひ。よ々。免身。ところ。が。被紫。山房。あ。

浪速の浦より便船来。遙げ。浪路をゆき。程ふ。暴風。船碎け。皆大洋小  
沈。折在下。車ひ。板子。携り。潮の任。流れ。洪波。打揚られ。の地  
浦。寓ると。さう。一旦。息絶。ひし。又幸ひ。更生。四下。さす。古屋。あだ。  
其處を何國と知り。されば。人あらん。と。月を。燭。幾十町。來。疲勞  
見。樹回る。社。憩ひ。やう。雲。妻。時。目。睡。程。暴風。連。怪。られ。搦  
捕られ。在下。素。押。せ。罪。衣。濡。れ。乾。れ。潮氣。耗。せ。肩  
濕。れ。あ。證。賢察。あり。免。させ。う。び。げ。実語。虛説。う。雜。哀。告  
心。うち。寝。くる。城主。頭。うち。掉。入水。ゐ。まれ。摠。て。汝。名。趣。實  
詐。詭。や。あ。ざ。幾。遍。向。せ。る。と。外。情。由。も。ひ。と。と。く。せ。も。敢。聲。き。立。道  
奴。甚。大膽。の。舊。里。近。江。る。某。村。く。父。母。喪。ひ。身。よ。う。免。贍。被。紫。の

由縁を訪んと。渡海の便船せり。のうが賤民の孤やくを難儀の旅す。今身のざる相応ゆき。上身練の軍衣膚ふ著へ。越後麻の襦袴にそむつ。と形状と齟齬せる。是詭言の明徵。憶あ敵の反間者歟。然らばち別の情由。知ふ雜兵ぶら羨う。と心も果ぞ。左右齊一珠之以。を引捕へ推俯く。答を揚ぐ三十。背をひく打へ。珠之以皮破き。肉を口する苦痛不堪。細まる声をき。牆モ。今飽まで。歐懲。ましゆと実を吐く。若者共其奴。答を當よ。烈火を下す。也。お伏せん答を放く。ひくと叫べ。さゆひく。まちすけ。危を。珠のすけ。之衣れ息を吻え。跪を。又上座あうち對ひ。あ地を何。幽と。まく。知る。危後難測。之衣れ。息を吻え。跪を。又上座あうち對ひ。あ地を何。幽と。まく。知る。危後難測。

京師ふひだ。余るふ主ある。元盛。阿波使と美和と彼地赴きて。來つ。在下。木も俱せられ。船と尾崎。返せ。折え。盛逆謀あり。し入小詭言せられ。數百の計を差向られ。陸ゆも寄せ。船中ゆく。主役。凡百名あり。討捕られ。その折ふ。在下。木も海小舟入て。脱れ。あの地へ流寓り。その縛の趣り。向ふ。きませ。不違ふ。と。一旦詭りゆく。あの所も。亦管領の御方の城地。さん。欲と。羈の附み。ばく。されども元盛。逆謀る。よ。や此の越度あり。在下。きふ。一毫も預知。び。うね。れ。憐愍。愍と願。のを。と。木城主の敬萬を。原來。汝の管領の權臣と。争ふ。香西。が。尾張。け。う。あ。へ。則備前州三石の城ふ。と。赤松家臣の采邑。され。故管領澄元。は。舊姉の好み。知る。先君赤松政則。朝臣の後室。勝元。朝臣の息女。あく。洞仙院尼即墨。が。れ。高國入道。送恨。それ親。や。木。まれ。件の元盛。民。虐。驕。極め。信者。と。入信。豫て。實。する。一。も。あれ。が。滅亡。ゆ。も。う。と。亦。そ。の。妻。

正索あがみ竊は京師の光景。向まく坐よ。あふ汝詳ひはざめ。と向へ珠之役教  
びく。原来あの地へ備前る。二石をあらむ。只今の仰せ。再生する心地を考へ  
る事とも向せぬ。知る限告まらん。どなふ城主領てや。穀兵。這ゆ年。飯を  
食せ勤り。奥庭ある折戸の邊。わてぬきすが者を僕べ。渠本心を傾け。向る。毎に  
懸ぎ報。命を助ける。厚く惠み。盤纏を取せん。然まど焉詭り。されぞ欺く  
夕あが近屬。新刀。立地。頸轡を落す。その鎧鉢を鉗んの。且よくもの差を  
あらぬ。姑く索を放せ。然べとく由断。と。さりと逃す。あらぬる。欲と示せ。難兵一  
謀。及び。又遽く左右よ。珠之役を引立。外回投て坐。却説城主。退居。只  
稍未牌過。此件の方を携て獨奥庭の事を。縁頬。よ。身方れ。難兵。亦既み。矣。  
折戸の裡面。樹下。珠之役。あて坐。遽く引立。縁頬の下。推居。城主  
元は難兵。亦うち對ひ。今竊ふたの少年。に向ん。と。も。ヨヌ。汝達を退

ひそかに守れ。とくと急ぐせん。僕あらぬを退らし。當下城主。珠之後。京師の  
光景世の難説。あれ彼と。詰る。珠之奴。凝滯せし。彼へ懲々。同様々々と曲  
りふ。答る。城主へ。勢も。勃然と。怒れる声を。昔まで。それを皆。汝が虚言。され。此  
間者。ゆえ。那首の光景風声。まで。定ふ。榜。正ひ。を。今試。汝は。向ふ。その言  
揃く。同ド。が。も。が。れ。が。御。向ふ。元盛。が。扈後。争ひ。と。ひける。も。示。毛。汝。詭。辨。ゆく。これを  
欺く。もの。ま。是を。ゆ。推。毛。汝。汝。敵の刺客。す。れ。近づく。刺。殺。さ。と。欲。する。ふ  
そ。あ。ん。筆。今。ハ。免。げ。観念。等。と。敷。圍。て。足。踏。破。る。庭。下。駄。の。古。い。こ  
高。き。立。て。引。提。う。け。る。素。鞋。の。刀。を。晃。り。と。抜。き。ゆ。守。珠。之。奴。自。刃。刀。尖  
丁。と。突。著。且。吐嗟。と。死。の。賞。期。眼。つ。多。些。も。騒。ぎ。廢。妻。時。氣。色。と。爾  
を。そ。そ。も。せ。む。吟。笑。ひ。刀。祢。を。理。矣。脚。短。慮。ゑ。ん。在。下。が。嘗。僻。が。見。対。へ。る  
汝。知。む。豈。ど。向。せ。ゆ。一。京。師。の。ゆ。今。ゆ。ふ。詭。飾。く。何。と。方。祢。を。欺。く。ひ。然。掌。を

心疑ひ。もがく。轂を。敦園を。吾命運の竭る所逃げても脱へ。あ下。覺期と究め。そく首を召れよ。と項を伸し。合掌をす。憚く。荅て。つわら誠去猶も懸起て。ふ坐及祭と刀を引く。後ふ立ち。声をあげて。轂を。とほよ。西面ゆき。勤せ。珠之交。左見右見。感嘆して。姿態優美。た少年の有撃は。武く勇き。命惜ぬ。今般の進止現。凶房が猶子を。と譽言。辭。珠之交。評。意を。えぐり。今與房と宣ひ。内敵の家臣也。左鬼の浦の戦ひ。澳の水脣。ふる鬼と風の便。ふ室え。ふ舊名の瀬十郎。陶駿河守與房也。ある。あらと。御原人少。責向。折末松斂め。引よ。や。珠之交。それぞ。余が叔父。あれ。與房也。御原人少。責向。折末松。

心穢く浮世。あく。せのわらう。名生る。も。要る。錛。て。不。と。尋思。と。陽光。強顔。りそ。う。て。殺され。ま。と。權せ。小。武弁の家仕へる。甲斐あり。と。必死。と。究め。く。刃。ふ。怕れ。ぬ。大丈の心魂。吁。感。ま。る。餘り。あ。相別れ。よ。う。十。と。ひ。四。稔。する。汝。汝。が。二親。恙。も。あ。で。京師。を。處。る。秋母の阿夏。が。云。云。と。う。る。も。又。の。甲。身。る。恙。を。あ。る。叔侄の名。告。せ。よ。と。誨。え。け。ん。非。徵。ひ。是。を。と。珠。之。交。が。右。の。の。首。引。よ。そ。そ。の。身。の左。の。あ。の。甲。と。合。て。右。を。そ。る。それ。現割符。ふ。似。る。假。黒。子。一。字。マ。十。金。三。を。合體。三。千。世。鬼。の。類。見。是。再。會。の。像。見。ふ。そ。と。潛。め。死。告。る。骨。肉。の。誠。あ。ふ。顕。れ。獄。へ難。ら。共。侶。か。落。涙。の。珠。之。交。の。紛。ぎ。と。哀。あ。ふ。そ。と。携。め。や。う。而。て。原。來。れ。み。を。ち。との。見。ま。身。小。父。の。刀。孙。與。房。ゆ。一。平。家。た。お。び。備。前。の。三。石。の。毫。實。土。方。降。百。二。途。河。ほ。ど。の。あ。な。ま。や。先。身。の。四。稔。前。つ。比。左。鬼。の。戦。ひ。敗。れ。折。船。覆。り。と。彼。生。底。没。み。だ。と。ま。る。身。ひ。け。免。再。會。へ。故。そ。あ。ら。顛。末。を。告。て。惑。ひ。と。解。て。こと。せ。じ。

卷之三

志村一あす  
あく問へざまを。とる妻時四下第々之現理ひ承る。爾が疑ひ世あら死せり。と思れ。  
舟房が存命て。四稔よどせをあふ送るも。詳ふ告し候。従時左鬼の退治。御方の  
船の風波ふ哉。破られ覆す。妻子後類士卒を。うそをや魚腹み葬られ。舟  
房が衆ると。難兵の船と二艘の。命づれく真金。吉備の前鳥居の地  
浦ふ辛くも流れ寓り。ぶつてざれ會替の恥を雪めて左鬼の城と再びも復き  
む。主君お見參ま。况周防へ阿容あくらと信を下し。島。潛びてはまをあよ  
在り。我も這備前州の赤松家義村。うち子の采地。されば家臣浦上掃部助宗  
村これを支配して。その子浦上備前守隆宗こうのむねを三石の城主をあくる。彼宗村  
豫てよう。が主君太内殿内侍の志と頑かたにて。他事を考えよりもあれば。若しく  
て。隆宗の資を。城へ追り。合戦の姿を謀る。と。ども戦世の沿習。赤松  
家も亦。事ふ。宗村の又京師へ。疎さきたても。おり。首鬼西端の意味あれ。

ひが爲の三力を用ひ。もの故あり。宿望。画餅とあり。榜綱の長元光明殿。近屬。周防へ。徳。歸参れと叮囑。仰下さる。尚あげたるも。是れ。今や。帰参。面をさす。ひつ。せす。魚程。遠石の城主。浦上隆宗。所要あり。播磨へ赴たる。より。奥房城を頼り。敵地の備由斷。民の訴を受聽。定め。隆宗の還をまことに。折別れて。殿の年を歴て。迭々面を認ら。名告。會へ。毛切。死ぬを不幸と。爲ひ。存命。まけは相見。もの。歳月。異。あれ。叔侄共ふ入水。等類のみ。斎。たゞ。其身。懸る。備前。之。石。ふ。流。寓。奇。き。か。歎。染就て。又み。天。ゆ。ち。れ。れ。爾。ひ。の。事。由。縁。あり。郡。香。西。仕。て。る。の。身。の。来。歴。親。の。詳。ふ。知。せ。ま。あ。ぞ。と。向。合。武。夫。の。猛。を。あ。ろ。も。恩。愛。と。情。義。お。脆。絶袖。の。露。置。く。と。あ。ふ。と。敏。言。葉。未。ま。す。珠。之。女。ほ。ど。曾。に。臉。を。抑。拭。し。有。如。之。一。と。知。そ。と。母。と。共。最。

大々苦て死客宿せり。あり。そちの次ふ告めらん。仙ゆうそろ比の親の苦勞。年  
長て傳習する。あひ身が猛木山口へと。返され。一年の秋家尊と異母ある女  
足え。非命があの世を去りぬ。是より後近江。福富と尔片山里。憂歲月を送り  
た。母の艱苦。吾儕のうの首をり。箇様々々と木偶。小夏が。阿夏が。うふ  
忌む死の。皆省略。大丈夫。次第情也。年来那首。み養れる。そこのゆゑ  
還もき。周防の客宿。盤纏竭て。困窮至極。をろし折料。うを辛踏。又四郎か。環  
正あひ資を。母子京師。ふ伴。阿夏。又元四郎。故鄉へ還る。ふ伴。陸奥。おま  
寄む。まのす。ふまけ。あれ。卦。珠。え。華頭卿の愛顧。ふより。京師。ふ單り。職原諸礼。を見習。且く彼  
卿ふ仕る程。香西元盛。懇望せられ。又。お家ふ仕。ある幾條の長の。説  
始終。り。漏え。増さ。そく。周防の一役。今。そぞ。辭を連ね。ひよ。あれ。告  
四。與房。は。すく。夏。毎。か。或。驚。免。或。感。じ。且。歎。息。ま。工。半晌。うつ。又。だ。ゆ。

稍釋。悲。憐。木偶。小夏。山豪の。よ。か。う。れ。命。う。う。き。り。す。よ。毛  
よ。の。後。阿。夏。が。艱。難。人。の。情。お。見。と。寓。せ。爾。と。守。む。育。る。數。年。苦。勞。然。老  
や。う。ん。加。以。周。防。を。母。子。詮。て。來。一。甲。斐。す。あ。よ。も。う。入。ゆ。よ。詮。音。の。愛。年。折。  
皆。中。と。今。ゆ。ふ。汲。て。そ。彼。室。津。海。の。平。例。の。底。を。數。き。そ。れ。り。那。地。ふ。在。喜  
ら。久。面。會。憚。あ。ど。も。左。も。右。も。と。取。ら。せ。ふ。悔。て。返。ら。ゆ。る。甚。麼。屋。循  
り。來。て。活。三。殺。三。出。り。けん。あ。う。わ。れ。も。幸。ひ。辛。踏。兵。再。會。と。佯。と。底。そ。う  
え。ふ。阿。夏。其。外。ふ。よ。ま。ぎ。定。め。渠。が。故。鄉。へ。赴。る。事。の。情。と。精。告。に。本。意。や  
あ。ら。ト。あ。で。う。う。が。お。木。偶。ふ。別。れ。よ。十。稔。ま。り。の。艱。苦。辞。せ。久。紀。寡。婦。  
禪。兒。を。守。育。し。與。房。ふ。不。安。あ。づ。ド。や。不。れ。せ。ん。と。お。ひ。う。の。空。と。よ。座。経  
た。身。の。ま。ぎ。ふ。再。縁。と。結。び。け。情。義。ふ。味。と。う。く。い。那。元。四。郎。も。口。不。舊  
友。永。正。比。深。草。ゆ。心。考。ま。よ。え。わ。れ。竟。ふ。ち。家。を。往。け。る。も。亦。公。馬。れ。

身。出。出。那福富。と。の。御民。が。阿夏母子。を。養ひ。か。俠氣。あり。夜。  
も。あ。を。ナ。兼頭卿。の。あん庇覆。れ。優。て。有。之。を。厚。也。今。ゆ。不。を。歎。り。ま  
そ。之。便。著。も。あ。を。至。ち。不。た。る。な。が。薄命。の。ま。ぐ。で。人。も。か。流。寓。の。定。を。見  
世。不。定。を。見。身。の。往。方。を。悲。け。れ。嗚。呼。何。と。せ。ぞ。天。下。の。憂。苦。不。堪。ね。薄。塗。草  
荒。口。説。る。杜。士。が。あ。怨。恨。を。あ。び。て。阿。夏。が。や。ど。學。の。三。佛。生。山。六。十。嵇。の。仇。を  
西。箇。の。夫。や。又。无。四。郎。が。遭。一。夜。の。情。由。を。知。り。怨。子。迷。ト。覺。察。の。要。を。深。り  
け。叔。父。の。心。を。推。量。珠。之。双。の。深。う。ち。を。え。は。あ。母。け。負。御。述。懷。然。虎。あ。ろ。不  
す。あ。ま。今。よ。う。あ。ふ。單。と。左。夷。の。城。を。攻。め。る。日。小。第。一。番。事。先。駆。多。戰。殺。せ。ば  
那。斬。の。埋。草。か。き。居。り。そ。の。哭。そ。元。し。ひ。と。勇。む。と。真。房。推。禁。を。噫。声。高  
い。何。を。ひ。や。左。夷。の。主。君。の。ん。為。孤。城。氣。盛。か。あ。そ。を。攻。る。と。あ。べ。く。波。を。あ。る  
日。仰。下。さ。れ。ま。又。い。ふ。と。母。せ。ん。方。さ。り。お。バ。四。捨。光。づ。月。す。妻。を。も。及。獨。子。さ。り。房。子

九。も。那。浦。を。水。肩。と。き。る。是。より。以。來。心。の。憂。苦。の。淡。雪。の。消。字。を。う。に。積。れ  
ど。も。を。慰。う。あ。も。る。余。る。ふ。爾。と。不。憶。く。再。會。せ。の。迷。の。欲。ひ。今。の。世。ふ。只。叔。父。ひ  
と。住。ひ。と。う。な。る。ゆ。あ。れ。が。養。ひ。と。う。引。箭。前。と。傍。へ。家。を。紹。す。る。う。と。幸。せ。れ  
中。の。幸。れ。ど。左。夷。の。城。を。喪。る。行。祭。身。を。恥。他。御。又。蟄。せ。う。れ。る。ふ。る。私。の  
家。の。為。ふ。子。を。養。ひ。貳。あ。う。これ。あ。不。似。て。不。忠。え。繼。の。笑。を。免。され。難。す。う。あ  
そ。る。爾。と。あ。ふ。齒。め。が。う。そ。う。が。心。よ。羞。ひ。不。舊。衍。あれ。そ。よ。必。恨。と。そ。う  
ま。そ。方。あ。あ。珠。之。双。の。沈。吟。だ。る。頭。を。擡。て。五。口。介。を。あ。ふ。齒。め。う。と。宣。ひ。は。事  
情。を。定。ふ。知。る。よ。存。れ。ど。ひ。ま。過。世。の。約。束。え。け。ん。仙。れ。と。別。れ。る。亡。親。と。も  
急。か。く。出。ひ。あ。ん。身。ふ。一。日。も。親。く。事。す。う。矣。住。た。甲。斐。も。あ。だ。れ。枉。て。許。せ。せ  
れ。と。口。説。く。を。聽。金。頭。を。掉。く。愚。児。珠。之。双。武。運。を。う。年。老。て。坐。席。の。中。あ。身。ま  
か。る。す。か。未。期。の。水。き。を。せ。む。と。逆。じ。妻。と。子。を。先。そ。そ。今。送。る。牙。を。再。會。測。正

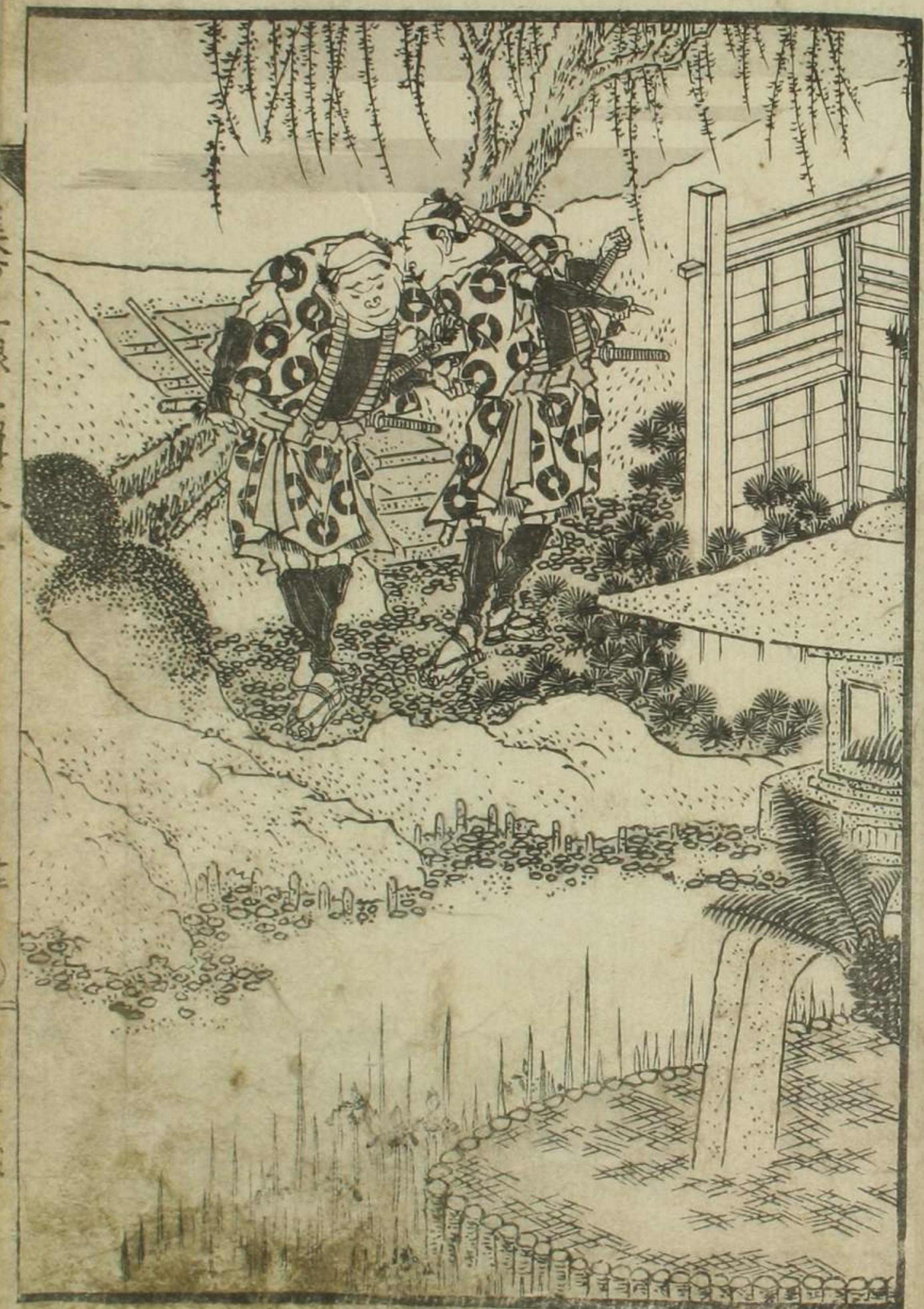
修理矣  
朝貞室  
郎朝易  
兄民部翁  
輒寧の子  
扇谷の名  
迹藏州  
入尙郡河  
跡城主  
天文六年  
胃昔卒

御之候。とより臣があひき。追遣のあざを。を遠離る。武士の修理公  
道人情面。全う素が。のきを。愛惜せん。感ひ。まことにも。只今坐て  
ゆく。故管領憲実ぬ。から主君の身を。寓せ。長門の深川。かく。在す。  
比世を逝り。されば是の内縁。今。鎌倉の兩管領も。與房ある。知らる。  
就中扇谷朝貞。朝臣の藩中。年來相識。者。見る。那家。ゆゑに衰へ。  
今。武藏と上野。所領。不。幽不。過。武の河踰。在城。と。ほ北條家。空  
戦ひ。然けれども。舊家。世々管領の貴族。えり。関東の武士。され。彼と志を  
運ぶ。かく。と。はえ方。かれ。又。遠く。鎌倉。還住。して。威勢。舊の如く。あらん。  
よつて爾と。紹介。河踰。遣まべ。朝貞。朝臣。を。主と。憑。名を。揚。家と。内  
ね。がれ。又。今より。東西千里の別。あれば。相見。ん。と。輒。も。就て。誓。む。充

數。小條。あれ。生と。爾。を。不。す。す。容止醜。と。生。美。た。と。と。と。と。と。と。  
涯。を。欲。と。往。き。方。り。これ。亦。そ。の。良。の。不。卑。と。不。ス。兩。能。耕。事。頑。智。不。算。事  
と。齊。ヨ。ス。之。是。徳。の。害。黙。と。徳。脩。系。不。如。才。ある。の。自。負。と。行。秋。宜。一。年  
ざ。ま。ヨ。ス。之。周。公。の。才。の。美。さ。る。驕。且。夸。ふ。か。の。餘。不。足。を。と。の。余。闊。主  
き。え。盛。驕。且。夸。忠。義。不。陳。を。の。う。だ。那。威。亡。不。及。不。と。爾。由。也。元。書  
あ。食。り。驕。と。賢。と。思。ひ。一旦。權。を。執。せ。あ。と。よ。又。成。安。と。く。世。不。浮。薄。る  
る。の。色。と。好。化。貨。を。愛。と。恥。を。あ。い。あ。れ。い。が。ふ。陳。を。礼。是。貴。賤。序。は。曲  
尺。一分。則。寸。及。毫。一寸。赤。尺。及。分。且。よ。と。の。量。を。え。ま。く。分。限。を。守。る。べ。  
か。の。ど。これ。亦。少。す。時。行。を。う。う。ま。時。の。行。が。無。免。ま。と。あ。と。改。ま。る。  
何。の。益。あ。ん。と。れ。を。廢。樹。榎。細。小。木。麻。石。も。づ。か。如。と。の。樹。大。な。う。き。と。れ。  
痴。亦。隨。大。き。う。と。ぞ。う。の。う。ば。互。が。う。時。の。行。を。改。ま。る。か。ま。の。懶。

出像第二十五

皇天豈給  
意中祕  
白刃難割  
骨肉情割  
鶯齋



大父うきと死後まへ旋の古び庵あ。口う今悔ひてを。而爾示者を知仁骨の  
 三德も忠信孝悌の行也。自然と人の心の備え。氣概ぶ學不廢され五常へ  
 も至。惡趣ふ深り易谷の和漢今昔一致眞房がゆう。お此の行を本い  
 きとらふも。竊か心よ恥ざし。その行を知りて今ハ術以鮮。余の闇を  
 ふ揮く。もや忠信の胸もと亂離の入を禁じられ。之なる教と諭論せ。珠  
 衣の胸前を錐を刺す心地。慚愧後悔恨。是れを土居た。登時負  
 房の外原うち對ひ。嘗むどうう鳴き。庭へ退を居る。毅兵小齊一阿自食。  
 遠く來あけ。嘗不も向近く呼よ。其の少年の來歴。され人具ふ糾同せ。あ  
 素是東國のため。其親より舊友よりて翌人を隸て。舊里を送遣。奉  
 脅城中ふ東を置く。之を下知候べ。等御事の母を。叮寧の命を。其  
 賢兵小の僕あらぬ。珠之从をあそ退りけ。看之西又與房の腹は老兵二名の  
 二名ふ送らせん。翌其夙めを。至く東國へ赴く。戦國の常制。新  
 路を新  
 関も見えあべ。盜難中亦測ひ。姿を審。微行して非常の患を。傳示を要と。を。  
 就て東國ふ到くも。今的名字である。有數ふ憚き。未松の省。珠之从の玉を除く。未朱之从晴賢と名告ふ。され道家の教ゆ。小人罪な  
 玉を抱ぐ。罪ゆ。とある。玉篇を除く。この意は稱する。只のまあひだ。  
 素末と陶と。文字異れども。和訓は。是須臾と。又晴賢と名づる。天も  
 晴れ。字宙暗く。人も賢い。理が明る。冀く。爾が心能暗く。はる。夕  
 苍天の亮多平と。晴る。如く。世の賢者は恥ずれ。と今芳氏の未う。を。ま

之从。ぐわと耳を示す。笠草鞋の類を。客装の准备を急ぐ。扇谷家へ紹介の  
 一遍を書。守て更圓る比珠之从を。寵ふ召よせ。取ふ。畢竟ふ示せ。趣。今もふ  
 又ひふ及ひ。扇谷家へ汲引の書翰。既に寫め措つ。盤纏も聊取ら。ま。老兵  
 二名ふ送らせん。翌其夙めを。至く東國へ赴く。戦国の常制。新  
 路を新  
 関も見えあべ。盜難中亦測ひ。姿を審。微行して非常の患を。傳示を要と。を。  
 就て東國ふ到くも。今的名字である。有數ふ憚き。未松の省。珠之从の玉を除く。未朱之从晴賢と名告ふ。され道家の教ゆ。小人罪な  
 玉を抱ぐ。罪ゆ。とある。玉篇を除く。この意は稱する。只のまあひだ。  
 素末と陶と。文字異れども。和訓は。是須臾と。又晴賢と名づる。天も  
 晴れ。字宙暗く。人も賢い。理が明る。冀く。爾が心能暗く。はる。夕  
 苍天の亮多平と。晴る。如く。世の賢者は恥ずれ。と今芳氏の未う。を。

文字ふ表せん。這名ふ差て行状を慎めりと解示しと書翰ふ黄白如干両を  
そえども。まのすりうけひでぞろくるるきと。  
そり添て取せりが珠之众多受戴しと坐ふ感涙の進むと禁めりと御慈愛深く  
ごちえんをきうマトミ。  
御洪恩仰謹てうけぞりまつて。膽ふ銘ド心ふ勘毛モ忠勤と撫毛ミジン。憾らぐる路  
とキ。  
遠くと訪問容易くびるべ。願ふ自愛あるひよ。とひふ奥房欽びく。あくらん  
あらん。トモトモ。元氣。れ。  
安堵す。今りも是まで。あく睡アミ。起と急一章。珠之众多よび  
ゆもひ難く。別を告く臥房ふ今りを。その曉く。ふ那老兵亦へ叫覺。饅を  
薦め。客裝と整牛ぬ兩人即珠之众多相具しく行籠を背負ひ笠子と携へ城と  
出東と投く。武藏の河踰あき送りゆめ。あと與房前。の霄ふ竊に分  
付たれ。是より珠之众多姓名を改めく。末朱之众多晴賢と名告りけ候。  
まのすりせんゆ。まのすけをるり。

享禄の役君臣乱離を  
鷹捉山ふ晴賢魔と遂に

且説尼崎の城主右馬又伊賢。香西元盛を説滅と。竊か心安らし。所あり獨つらく深念をも。か元盛既に口びれど。渠が弟坡と野種通。桺本幽友。ふつづ密山謀を知られ。奸縛の難義。以及べ。初より件の密謀。知り。まのれ兩箇小過を。とも矢野宗好と。獄舎み敷疊だ。偷見の那偷見奴。欺瞞。ゑ。結果はれ。後産り病ねども心憎。宗好へ過分に賞禄を取らせ。ふ猪もあらふ。嘸き。功ふ誇。見る面色を。然るを知りて由断して。那奴が口より洩され。後悔其咎。不立か。あ。の禍を禳ふ。か不如と。腹穢。くも思量り。く。羈々。小毒を餌。人。あ。矢野。ふ告よけん。宗好。蠻馬。怨。遂電。あ。く。迹を埋。丹波の上。ふ赴。波多野備前守。植通。伊賢が隱匿の顛末。元盛。説死の秘事。遂。基發。告。植通。管て送。恨。勝。矢野宗好。奴留。指。その身。潛。京師。赴。弟桺本幽友。對面。あ。奸縛云々と報知せ。

卷之三

卷之三

右典厩をひづる兄の寛家と勿論されども入道殿高國の儀大吉。讐言を  
信容く。やも罪免。冢臣ちきをむごと討せ。是れ恨氣先や謀反の旗揚ゆきあげにて。驚て  
嘆あもモベド。和殿わだいの奇うつくしき丹波たんぱみ還ら。力と勧せよ。薦めよけれ。因友ゆゑとも大おほき  
慾うを。原来さそり。比七枚ひしちまいの誓書ちゆうじょを賜り。ある事のあれど然りとも知らず。欺れ  
けましゆより。忠義ちゆうぎふ。兄の枉死まごしを易かへ。又またも悔くやけれ。宣あらわす趣きあらわ。至  
共とも覺期くわき。仕つから全ぜん応おうて。種通たねつうを還もど。遣おとす。日渢ひよ。竊くわふ假あ托たま。竊くわふ京師きょうし立  
退ひき。神尾かみおの城じ。盾たて籠ろう。兄種通たねつうと共とも侶とも。近ちかの武士ぶし。謀ぼう合あせ。阿波あわ  
三好みよしが一味いつめい。て。掎角ひくわくの勢せいひと張はり。京師きょうしの騒動さいどう大き。然程ぜんじょうか。三好みよし筑つき。  
前守元長まへしゆ もとなが。種通たねつう。幽友ゆうゆう。返忠かへちゆう。時ときを得て。去歲こしの夏なつ。四年よんねん。六月ろくがつ。九日くにち。阿波あわの撫養むよう  
也ま薨こう。故將軍義種よしゆ卿けいの公達こうだつ。阿波あわの御曹司ごそうし。義よしを推おて。大將軍だいじょうぐんと稱よ。卒そ  
。故主右京太夫澄あきらか。元晴もとはる。を管領かんり。左鬼さくきの城じ。三好みよし勝かつ

時。その子勝長。亦先鋒の大將とあり。阿波讚岐の大軍を引率し。京師を望む攻  
略。やうべ。道永禪門防ぐ。將軍義晴卿。又三好。近江路へ落して。めたり。三好  
木即上洛せ。阿波の冠者義維。左兵衛督。又任せられ。聰明丸も元服。  
後右京大丈。おなじれ。かねが晴元と名告りけり。是より。開戦年と累ねて。三好が  
威勢盛る。有如之程。柳本彈正。園友。又晴元。睨近き。逆感を振ふ。  
ゆゑに。三好が權威。及ぼす。媚え。晴元。諛言あり。あ。故。小晴元。長主  
後の間睦。かく。も。そぞろ。程。ふ。享禄三年六月晦。柿本園友。播磨の依藤  
攻け。陣中を。何もの所行とも知ら。寝首を檻れて。亡ふ。矢野宗好が所  
為。う。と。ひのあ。と。兄の種通実事。と。思ひ。矢庭。宗好と。數々。捕り。実  
讒言。と。ぞ。写え。園友。ら。宗好と。ひの。終り。と。よ。せまろ。し。是。梓達の天罰  
也。汝。不生く。汝。返る。因果。ふ。そ。この。の。あ。比高。幽入道。法名。道承。改く。

持埋葬して法謐と三友院とを稱ける。義維、晴元、長宗の三人。話題是下にす。下の文如  
ての如く。又好元。長道と。海雲と号す。之を子長。慶至く。之を強。之を勸懲の一端とも。又尾作者の用心と知り。同話休題復説未失之く。  
晴賢の那老兵もよ送られて。十日あまりの客宿を。武藏州入間郡向跡に御ふ著しや。城外の旅宿を投ゆ。夜裳を更め後者をね。城中ふ進み入り。管  
將軍義晴没落して近侍完太守薨。邑みを後年のみる。向く。余後主君ふ情えあげて。陶奥房がをしくと。紹みある。少年うかが疑ふ。然  
より朱之介が執事の望ミ更整ひ送り來つ。老兵ホリ家臣許諾の報書と朱  
文載する。

之役せうそくが消息うきょうを受うけてより。別べつれて備前びぜんの三石みついへ還もどりけつ。却よ説扇谷朝あさぎやと。末朱まくす之役せうそくが月俸げつぶをゆ汰ゆたして且子舍よしやを賜たま。尔后それごと召めしてこれをすまふ。艶顔愛えんがんあい志し。死少年しじんねんゆく。進止しんしも疎幽すうゆうる。近習きんしの後あと小役こわくと。左右近うしゆく使つかれる。有智ありの才の才さい。と。をまつて。程ていふ朱しゆ之役せうそくの言ことと行はひを慎つつめ。精悍せいがんで仕つかる。不ふや一稔いんあきりの朝あさ與よ。愛欵あいびく。祿ろくを増ます。格かくを升ます。且またくも左右をもぎ。折々臥房おはう裏うらへ。大永だいえい八年八年から年としか享祿こうりくと改かる。有慚うじん又蒸あわ生なま雁かり來きる。春秋しゅうしゅうをもく。大永だいえい八年八年から年としか享祿こうりくと改かる。元もと朱しゆ之役せうそく既すでにふちや。十九歳十九歳ふきのたれ。骨太ほねで優形ゆうけい。戰たたかの習俗しこく。先さきの額髮かくしを剃除そひす。故ゆゑの役わくを使つかひ。ひづれ。出頭しゆとう。第一だいいちの近習きんし。然しかば戦場せんじょうふ扈こ役わくと。軍功ぐんくわをあさぎれ。莊園しょうえんを。賜たま。後僕ごふく一兩箇いつりを諫いさられ。子舍こも君所きみところの内うちふあり。一日いちにちの休暇きゅうがを。ゆき。を。聊まなざむ者もの。金券きんけんを。勤勞きんろう仕事しご。自じら。老黨ろうとうも渠わが役わくを立たてたた。と稱めて。憑のぞく。當あたり。あれ。

朝あさ與よ。有ある日ひ坐すわ邊へ途と侍ひした。朱しゆ之役せうそくを。不ふうそく。これ。の年とし來宿しゆく願ねがを。然しかば締しの障さうり。見みく。ひき。あれを果たます。由ゆ。汝なの美うつくを。よくせん。と。向むかて。朱しゆ之役せうそくを。擬議ぎぎせ。其その御武德ごぶだくを。莫ま大だい。其その餘の。此この。甲斐かいあり。く。とも。親おやぢく。召め使つかれ。四稔よんいんの寵遇ちゆうよ。故老ごろう。倍ひく。俸祿ほうろく。の。又。餘の。ど。ひき。御恩ごおんを報たます。一个ひとの功こうを。朝あさる。夕ゆふ。羞くじ。怕まれ。胸休むねやす。仰ある。仰ある。仰ある。命いのち。と。仕つかう。仰ある。命いのち。と。仕つかう。仰ある。命いのち。と。仕つかう。仰ある。武藏むさしふ。猶ひ錫すず。も。愚俗ぐぞく。と。清度きよど。を。程ほど。か。貴賤きせん。歸き。依よ。渴か仰あ。と。如お。如お。來き。禪師ぜんし。と。稱めた。因いく。予よ。城しゆ中なか。請うけ。待まつ。と。の。說法せつぽう。と。聽聞きよもん。せ。ふ。女め。鉢はつ。飄然ひょうぜん。と。傳つた。燈とう。白日しらひ。如ごと。梵ぼん唱しよう。殊こと勝まさ。や。清音きよおん。塵俗じんぞくの心耳こころみみみ。淨きよ。實じつ。是ぜ。獨ひとり。

世を當て。值偶あり。人間未曾有の活佛。免る輪回心報の理。了悟  
ある。ほらと思。惟るかづ。家数世戰國。鹿觸を。一方を藩鎮。一方を敵を殺す。  
躬方を。殺す。その罪障無量。善根を栽む。生てたゞ。孫ふ福ひり。  
死して。奈落ふ階。ゆき。ゆき。である。如。如來禪師。相譚。勝軍地藏大井百  
體を造り。一箇寺を建立せ。當身清果。自他平等。子孫繁昌。  
よもが。うる。王。あも。りび。決。や。即。よ。禪師。告。造佛の。う。憑。三。ふ。  
禪師。許諾。氣色。御情願。よ。う。ど。を。も。有漏の縁。て。眞実の功  
徳。ある。一寺を建立せ。一佛を。化。り。あ。ぎ。と。德。を。布。て。民。を。愍。仁戒  
施。と。政。を。正。ち。一。残。小。勝。殺。と。去。公道。私慾。と。首。死。め。身。後。中。  
升天。の。妙。あり。御子孫。長久。疑。ひ。る。無益。所。ひ。ふ。幽用。を。費。て。民。を。苦。易  
み。ひと。の。顧。教化。せ。れ。う。その道理。感服。く。且。く。劣。止。り。禪師。り。き。

東國を去る。今。吉野の山脚。六田川の上。木舟を。縮。行。澄。と。る。る  
よ。風の。便。り。あ。け。え。る。あ。そ。そ。す。れ。又。ゆ。ひ。思。以。る。禪師。尊。す。れ  
る。これ聖人。あ。ざ。れ。ば。られ。如。く。お。れ。う。か。う。佛。を。造。り。寺。を。建。は。り。や  
有漏の縁。う。と。あれ。を。為。さ。れ。ふ。優。べ。る。又。又。禪師。よ。と。歎。く。這宿  
願。を。果。す。と。よ。う。類。り。か。手。け。き。ど。す。う。る。あ。使。と。禪師。告。て。許。容。せ。す  
き。能。辯。奇。才。の。ひ。を。加。旃。相。摸。よ。西。も。南。も。皆。敵。地。ゆ。の。往。還  
容。易。う。を。然。る。と。よく。那。地。お。到。り。そ。主。命。と。傳。が。智。三。男。の。ら。も。亦。没。ぐ。と。主。命。  
障。を。あ。き。を。り。そ。お。ひ。る。竊。ふ。擇。む。の。仕。ふ。稱。の。汝。外。小。大。も。賞。を。か。  
そ。が。死。よ。う。あ。れ。ど。汝。大。和。へ。や。く。若。や。百。十。數。里。の。敵。地。を。過。す。主。命。と。傳。禪  
師。お。請。す。予。が。宿。願。を。果。す。急。の。功。績。莫。大。る。し。賞。が。宜。く。乞。ふ。依。る。  
心。を。定。め。く。言。義。せ。よ。と。要。ひ。入。り。つ。覺。え。あ。ふ。朱。之。女。か。そ。く。嘗。裏。頭。を。擣。け。

弱冠未孰の某せん入等す。思召れ矣。仰のあべト也。縱敵地あり。凡  
霜露路の降る所舟車のゆふ所ある姿を寧々一方便とす。山をも河をも踰  
く。只心のうゑの件の如如來禪師とす。造佛の義を許容ある。老體  
百里の往還と數々。菴室を出ぐ。と宣りまくる。欲尊慮奈何。  
向まく。朝兵のゆ感嘆して。これ初より汝が才幹。あべーと號ひ。そのの所  
果して達ひ至。禪師の意を納ぬあり。造佛の義を許され。東園に伴ふ  
及ぶ。那處あらぐ事と稱め。堂塔も亦彼山の邊ある。建ての。ようく。這  
間。沙金五百両と白布二百疋を贈遣へ。造佛の料とせん。餘堂塔建  
立の諸雜費。百軀の佛像成就の比。宿て齋遣へ。今ある件の金と  
布。吉野を運送せん。道中幾十数の後者を要す。據て汝が望み任  
せん。宜攻定む。と亦他更も急れ。朱之役の脱り路。要安時頭城

傾げく。逆旅の多入。數々。のん還て入が怪られ。障りある。有僕。布  
と金。韓櫻二前。がとうふ藏。是を昇る。七八名別ふ。宰領一名を添え  
る。足るや。松某の山伏の峯入。打粉て。大約。這八箇の  
從者を。路と。誰う怪。禁む。轉く。那地へ到らん。何の疑ひ  
か。この義の脚。やまほへ。と憚る所も。あく。朝兵の。大く。感じ。通  
微。よく計。あけり。むす。義経の。奥州落。主復山伏。打粉て。安宅の。奥と論  
た。こ。頗る。汝の。今。牛孺。た。の。ち。の。三。速。准。備。と。遠めい。首途  
させん。され。那首。到る。禪師の。許。容。あ。ま。よ。や。一年。十箇月。近。苗。も  
と。も。け。もう。わ。い。も。偶然。時。算。及。び。費用の。後者。木。皆。返し。縛の。便宜。甚  
多く。報せよ。脱落。ある。を。ある。ね。よ。づ。の。進退。肝要。以。管。慮。む。と。懲。切  
る。主命。送。もう。や。朱。之。从。言。差。へ。准。備。の。為。退。け。却。説。朝。兵。

當直の老黨と方口よ各そ件の趣と説示。如如来禪師へ調進の件と整  
奉せん下知と彼此の傳下く日あらむを物みる整ひく盤纏もよく遞与へく。そ  
程小朱之从の兜巾縫懸金剛杖揃く修驗者の打扮る。客裝を整へ  
主君の別を告をり。宰領が立られる。杖月乃ハとゞ雜色と年來その身を  
隸られる。坊二郎より小廝とね。四箇の奴隸は西前の韓柵を算て後す四箇を  
輪廻と定めく。此彼共は十一名。あの年の秋捌月の初旬より起行して大和路投  
急だけり。豫く計やうあるべく通路の城下新聞も障る工事もあらず。その月廿  
望の比吉野山の麓六田の御お著。御の客店の宿投定め。逆旅主人を呼近づけ。默契如如来禪師の草庵へ何處か詣る。お主人答て。禪師の  
住せる處へ。這六田川を渡りせあひ。北六田と比曾寺家の間ある。山里で不入。

路程遠くもあらぬ。とけがちも黄昏うち。今宵より精進禊齊して夙めく訪せ  
ゆる小朱之从うち。多く渠何をあらん。反てどもぞの意ふ任へく。敢亦魚肉を  
用ひ。さがれ兜巾縫懸るどん。逗留の間ふ要すどく。あまくらん。皆脱捨。野袴を  
穿たうけ。有往而至の翌旦。朱之从行水を。衣裳を改め。西前の韓柵を八  
箇の奴隸を算て。先立つ。乃从坊二郎をね。北六田の御宿赴くと。登時逆旅  
主人あらへ。奴婢ふの意。朱之从おぐ。真の修驗者。おぬをぞく。疑惑するもの  
有れば。うそ乃从。小耳流を。問ふ。お乃从答く。否疑る。うみあらば。原是大諸侯の  
使者。あれど。輒く敵地を過る。見る所。假山伏坐す。必る怪しき。明々地ふ  
報ふ。衆皆初く心をも。ゆくびに意せざ。既ゆく。朱之从。坐てゆくと。明々地ふ  
せ。折ふ。主人これを送ると。急不袂を披ふ。易許。まくをえんが。凡俗の  
見ゆ。精進禊齊をあら。深信堅固。されば。禪師の御對面の懶の如

カツキヨテ  
喝食行  
ド麁俗  
是もど  
ノ僧徒  
ノ御事  
祝長寿  
童子舞  
久喜ち  
是もあ  
方盤像  
久喜  
トウモウ  
童蒙家  
ねふ贅  
ゼイス

ひよし。ひよし。義を念トゆか。とひと朱之丞よりゆきを。應とぞうふ。豆答ヒモト。をあき  
まそりそ。さるやひ。ありのすけら。むちう。ま  
捨て急ぎけり。然程み朱之丞より六田川をうち渡りて北六田と比曾寺の間アシマツ。山  
里ふゆき。詣ゆ果アガム。と禪師の庵室アバンジ。里アシマツ。を去りて十町許樹枝深カツチハシヒヂハシ。岡カニ。むちうふ  
あり。進アキ。近アラヒ。且アリ。と。這些門アシマツ。の正中アシマツ。空アツ。庵アバン。の二字アツツ。を書アシマツ。た。一枚アツイ。の牌アシマツ。を  
掛出アシマツ。と。裡面アシマツ。より固アシマツ。鎖アシマツ。たり。當下アシマツ。朱之丞アシマツ。も。實アシマツ。人アシマツ。見アシマツ。庵アバン。と。外面アシマツ  
より。と。鎮アシマツ。を。空アツ。内アシマツ。より。せ。ひ。り。ふ。を。空アツ。庵アバン。虚アシマツ。文アシマツ。史アシマツ。必アシマツ。人アシマツ。の。よ。う。ら。ん。と。呼アシマツ。門アシマツ。と  
急アシマツ。せ。後アシマツ。者アシマツ。ふ。り。こ。ろ。ぬ。く。声アシマツ。を。合アシマツ。と。呼アシマツ。門アシマツ。と。且アシマツ。く。忘アシマツ。せ。ま。呼アシマツ。と。半。晌アシマツ。だ。う。み。と  
年アシマツ。十。を。う。り。る。喝アシマツ。食アシマツ。の。奥アシマツ。の。よ。り。ゆ。く。來アシマツ。戶。節アシマツ。の。応。敷アシマツ。よ。り。廟。窺アシマツ。く。來アシマツ。よ。く。  
ひ。の。誰。と。向。み。朱。之。丞。の。腹。立。さ。あ。一。入。声。を。き。立。く。毛。の。東。路。よ。り。も。ぐ。と。禪  
師。ひ。ま。う。モ。乞。あ。り。く。主。の。使。ひ。立。さ。の。え。あ。り。よ。一。宵。え。あ。げ。の。と。ひ。を。喝。食。雪  
あ。も。原。來。鎌。倉。の。晉。領。家。扇。谷。朝。與。ゆ。の。ち。使。ひ。欲。と。ゆ。こ。び。聞。れ。て。朱。之。

扇谷朝久の使者未某甲と青侍來訪せん。渠は尚縁るをの速ふりて  
去せよ。渠疑ひ逗留せば、竟不東圓へり。死枉難其身は寅縁る。有  
羨を傷ひ。と竊ふ示へ。あひあ。有怨者を争ひ。又登舞す。と寝む。と踵を旋  
ら。奥ひ入く。呼へどもゆみ。朱之衣がせんをまふ。又韓櫃を昇り。河を渡  
き。六田の客店ふり。されば、主人へ遠く出迎え。りあ。如如来禪師さる。御對面  
い。欲と向れ。朱之衣が隱ふ。うき。緋云云と説示す。と主人へ實。眉を顎單めく。  
那菴室中喝食す。初より禪師の獨住せる。と。他御ふ坐ませる。日へ空  
葦の牌ある。田守主者の免該す。ふぞう。あらぬ。ふぞう。憶ふ。も。喝食  
と。とえても是則禪師。あ。對面許。や。るよ。諷。と。示。と。あ。  
とまれか。され御逗留。分。と。免ゆ。と。覺。と。く。せ。の。不。優。と。あ。と。老実。あ。と  
諫。かど。朱之衣。後。これ主命を稟。す。ひ。ま。禪師の面を。と。何處。と。

欲還るべ。り。喝食が禪師。あ。が。狐狸。あ。ち。化。る。き。本の形。であ。ん。と。先。  
急。ふ。うち。入。く。對面。せ。が。脱。く。ふ。う。き。鳥。へ。と。の。う。後者。ふ。免。え。そ。翠。う。と。  
汝。達。へ。送。代。か。那。首。よ。死。る。日。々。に。菴。を。窺。え。禪師。の。菴。中。か。在。り。と。走。り。つ  
モ。これ。報。せ。脱。落。身。そ。と。分。付。れ。衆。皆。弃。一。そ。意。と。ぬ。形。の。と。く。あ。き。り  
け。有。懲。程。ふ。捌。月。へ。過。く。玖。月。中。浣。ふ。り。し。と。禪師。の。菴。ふ。り。り。も。あ。い。だ。な。  
旅。の。寂。を。の。る。百。景。短。秋。の。宿。降。布。木。葉。門。の。霜。鄰。ふ。疎。山。里。谷。の。松  
風。夜。の。鹿。の。声。よ。外。友。も。り。宿。で。も。寐。で。徒。然。ふ。堪。ふ。り。朱。之。衣。の。懷。惱  
か。と。樂。ま。を。心。頻。り。ふ。焦。燥。く。肚。裏。ふ。劣。す。これ。河。踰。か。在。り。一。日。の。主。君。と。兵。小。起。臥  
あ。く。鄙。詔。ふ。い。晦。知。ら。く。錢。帛。を。も。取。ふ。ど。を。食。ふ。餘。り。あ。け。ふ。小。よ。差。使。ふ  
立。られ。て。客。店。住。じ。の。不。樂。一。ま。み。ひ。の。饅。も。豆。府。固。の。薄。に。蒲。固。ふ。あ。夜  
寒。を。凌。難。る。罪。き。て。配。所。の。月。を。ま。候。ふ。然。然。そ。今。あ。ふ。夢。も。還。り。可。れ。

進退あわ谷りぬ。のぶ先生と胸中の辛苦。ひ日數と歴程。ふと。もまちま。啓  
行比の主命。お那地坐到く時。宜よ。とう。ゆうき。後。か。志。どう。不後  
よりあれ。韓樞。昇八名を四名の返して。宜よ。とう。ゆうき。後。か。志。どう。不後  
安。あ。べ。え。と。聴く杖月乃久の商量。多く。奴隸小。か。縛。云々。雪をあすて。半分  
より。半分。還れ。と。お。此。彼。決。著。せ。衆。皆。弃。一。願。争。との。日。來。急。送。れ。る。急。食。徒  
然。あ。い。が。武藏の。の。三。戻。れ。て。帰。箭。の。如。く。あ。い。よ。還。る。の。そ。車。急。送。れ。る。急。食。徒  
せ。ん。鬼。鬼。嶋。不。蹉。跎。せ。俊。寛。ふ。悠。ゆ。き。堪。が。う。す。が。先。願。を。送。を。返。寝  
ゆ。と。や。禪。師。の。帰。菴。わ。そ。韓。樞。を。早。め。の。き。と。川。一。條。を。渡。を。ま。と。折。を。里  
人。を。傭。ひ。ま。と。事。の。済。び。下。た。び。武。藏。立。え。ら。又。迎。あ。ら。と。是。も。廣。あ。る。慈  
悲。羨。引。ゆ。と。諸。声。悲。そ。乞。と。己。ざ。れ。ね。朱。之。从。の。さ。よ。ア。そ。と。又。乃。从。ふ。ト。を。示  
を。お。件。の。人。を。返。一。遣。只。乃。从。と。坊。二。の。三。用。を。韓。樞。と。守。無。と。商。量。決。定。

老。う。一。ぶ。奴。隸。们。み。ひ。別。を。告。詣。旦。山。の。端。遠。く。あ。る。引。東。へ。ひ。り。去。る。  
是。う。人の。寡。く。き。る。ひ。寂。く。慰。あ。難。せ。ん。御。の。見。れ。る。朱。文。公。の。身。君。終。う  
せ。る。も。あ。れ。今。茲。を。あ。が。て。モ。禪。師。あ。あ。そ。ハ。阿。容。を。と。が。下。ト。と。思。ひ。決。わ。な。あ。  
志。を。励。し。と。み。づ。く。件。の。草。菴。は。お。あ。な。く。窺。る。又。乃。从。と。坊。二。郎。を。向。き。時。を。遣  
せ。ある。柴。門。の。脅。鎮。え。く。此。も。便。宜。を。あ。ざ。う。が。困。下。果。て。あ。り。う。れ。近。江。の。深。山  
家。の。年。九。の。比。集。在。せ。れ。ば。日。每。あ。う。箭。前。を。ひ。夾。三。襢。テ。イ。な。け。あ。余。後。や。る  
枝。の。せ。を。大。和。山。又。山。を。き。れ。河。踰。を。脅。時。略。山。賊。を。禦。ん。角。弓。不。箭。と。り。腰。て。囊。衣。不  
飲。坊。不。持。と。來。つ。も。あ。わ。り。翌。未。明。と。う。彼。山。お。櫛。と。自。來。の。鬱。根。氣。を。散  
さ。え。傍。と。そ。躬。准。備。と。を。宵。乃。从。お。云。云。と。ド。り。と。告。留。守。美。夜。和。敵。獨。て。星。下

やうん。翠巣獲の鳥まれ御候す。ま玉羹かく酒と飲せん。靈安時の程をばうよ。  
とおもひてはあゆまを宣ひよる。如來禪師の活仏焉。神靈不思議の蹕  
あり。おどそ精進潔有。深信堅固。うがれば。の法顔と辨をば。とその主人も  
おわも。然までもあべとも。今を帰菴を俟ま。殺生を若て遊びてあら。  
禪師へとく忌避ゆ。辨顔墨ひごうべ。身のまより樂り。と諫るとの老實の  
きども。朱之父才を肩て人を非す。本性の。の時ふ稍顯れ。陶與房が教訓を  
うち忘げん。冷笑ひ。女々夷めとひのむ。出家の出家の行ひ。武士。武士の  
務も。殺生の五戒の第一。出家ひれを保へ。破るべし。在家ふ何の憚りある。禪  
師と深仰あれど。戦場ふ臨。敵ふあそ。殺生せども。念と敵ふ數ひ。もの  
やある。畢竟の理不暗。愚俗の共不論ゆ。禪師の実不活佛ゆ。あ  
理り。小点頭して。必許の。あざれさ。おどぞ。と説破れ。乃外終小争ひ。ひそ。寢案

然と答け。却説の翠朝朱之父。野装束にて。角弓を挾み坊。前。賈  
し。昏餉の割籠を持ち。て。未明より宿を出。慶長。擬山。半封。江。時。什月の  
中浣。手。けれ。疎林枝をまとう。偉不翠微と見。白雲出没。そ。高く峯木  
のあゆ。溪。落葉。ふ降埋れ。音。まど。水。落。鳥。古巣。と。そ。鳴。え。  
声稀。ふ。走。影。遠。羊腸。ふ。樵路。枯草。と。結。は。是。何。人。せ。乘。そ。  
嵯峨。くる。山峽。ふ。怪松。の。生。出。る。造化の巧做。せる。山。静。あり。知。景。と。晝。是。巖  
累。そ。長藤。ふ。携。る。了。得。ふ。趣。真。不。あ。無。朱。之。父。是。首。不。本。走。彼。首  
涉。獵。そ。兔。一。隻。と。獲。う。し。猶。も。佳。境。め。入。ら。と。下。晡。立。ま。で。も。還。る  
と。忘。ま。る。浩。岑。左。手。の。こ。見る。枯。芭。花。の。中。と。あ。と。一。隻。の。鹿。の。走。や。そ。  
朱。之。父。遣。の。過。さ。と。弓。弯。固。り。而。標。と。射。る。の。箭。の。竇。此。一。違。て。鹿。の。後  
足。を。射。削。り。け。ん。倒。れ。ん。と。と。遂。不。足。を。東。へ。逃。走。と。身。脱。す。と。走。ふ

宿山朱曹之身修射高富の妖怪

卷五



程ハ大約五町キヨクゴマチあまりふと。何處カコト見けりを金カネ受け。正カミく射イハ方カタと良ヨシい物モノから  
せんセイを悔カモ一ヒれ。精竭カツハシテて必カニ倒ハリ。是首カヘ歿ハリ。彼首歿ハリ。天アメさるサル。山深ヤマシロく入スルを  
覺カミ。ゆきハ朱スル之ノ从ハシ。僻ハシ。時深山ヤマシロを奔走ハシケル。久ヒテる時ヒメも足アシ逸ハシケル。早ハシケル。坊  
トト後ハシケル。後ハシケル。陸シテ來スル。程ハ黄カエデ氏ハシ。又ハ歩路ハシの遠ハシケル。朱スル之ノ从ハシ。心ハシ懶ハシ。  
麓ハシへ降ハシケル。急ハシケル。舊ハシ來スル一路ハシの定ハシ。日ハシは暮ハシ。天アメは曇ハシ。出  
玄ハシ月ハシの生ハシ。又ハのふともせん術ハシ。頻ハシりふ声ハシを鳴ハシす。坊ハシ二ハシ々ハシと呼ハシれど。絶ハシ  
應ハシせざハシ。渠ハシの麓ハシ俟ハシ。あらん。とよどむ心安ハシ。素ハシより膽ハシ太ハシに杜ハシ校ハシ。あ  
まハシ。有ハシ懶ハシけれども物ハシも勞ハシ。腰ハシ小著ハシ。方ハシ囊ハシ。よハシ懸ハシ。半ハシ火ハシ。鑽ハシて落葉ハシを燒ハシて  
四ハシ下ハシをハシ。彼ハシ細竹ハシ。よくハシ。是究竟ハシと伐ハシ。う。ゑハシ、純ハシね蕉ハシ火ハシ。而ハシ路ハシを  
索ハシく。舟ハシもく。いきハシ。麓ハシのふハシ。朱スル。前ハシ路ハシ。石室ハシ。あハシ。ひよハシそ熟視ハシ。小  
洞口ハシ五尺ハシ可ハシ奥ハシ。入ハシ。六尺ハシ小過ハシ。太古ハシ穴居ハシの迹ハシ。似ハシ。の時ハシ天晴ハシ。雲ハシ散ハシ

アヌ。隈ハシ。亮ハシ月ハシを瞻ハシ仰ハシ。夜ハシのち。炎ハシ中ハシかなりふハシ。且ハシくや。疲勞ハシ。嚴密ハシ。曉ハシ  
魚ハシ入ハシ路ハシを索ハシ。徐ハシ。林麓ハシ。下ハシ。と尋思ハシ。蕉火ハシ。振滅ハシ。棄ハシ。室內ハシ。進入ハシ。  
弓箭ハシ。箭ハシ前ハシ。側ハシ。引ハシ。つけ。半ハシ。天アメの明ハシ。候ハシ。よハシ。刀ハシ三ハシ。與ハシ。と。あ。ば。に。比。遠。く。南。北。當。て。  
女子ハシの叫ハシ。聲ハシ。朱スル。耳ハシ。敵ハシ。怪ハシ。矣ハシ。夜ハシの深ハシ山ハシ。女子ハシの泣ハシ。聲ハシの響ハシ。而ハシ。渠ハシ山賊ハシ。搔擾ハシ。ね。來ハシ。く。み。ゆ。ざ。然ハシ。果ハシ。と。あ。く。あ。云。石室ハシ。の。賊ハシ。  
巢ハシ穴ハシ。あ。そ。あ。て。坐ハシ。身ハシの。立ハシ。姿ハシ。あ。よ。在ハシ。そ。便ハシ。よ。う。庵ハシ。前。間。近。く。躲ハシ。そ。  
是ハシの。あ。う。そ。う。姿ハシ。あ。よ。在ハシ。そ。便ハシ。よ。う。庵ハシ。前。間。近。く。躲ハシ。そ。  
く。き。な。何。处。あ。が。ま。と。え。そ。室。の。前。面。小。松。敏。蒙。る。褊。小。身。圖。あり。と。間。遠。く。  
づ。けれ。走。登。り。強。街。洞。今。ア。シ。と。俟。う。け。畢。竟。朱。之。从。癖。者。射。付。  
き。件。の。女子。擋。不。可。そ。る。第。二。輯。の。初。の。卷。解。分。を。候。聴。経。か。

○幽亭翁著編近世說美少年錄第二輯画工筆詩人目次

山像  
葵園  
北溪

澤書

立言

谷  
葵  
園  
北  
溪

朝 原 舍 喜 伊 知 八

老翁讀書研究の餘業として稗史小説  
をのぞ世の婦幼ふ勸懲生の書今の大

家傳神女湯  
諸病の妙  
一包一百錠

精製奇應丸 大包代貳朱 中包代一多五ト  
精製奇應丸 小包代五ト 但有こうを不供  
芥子粉をえきと製粉方ども此處に於ては  
御身をうそをこの故にその物直前をうも此の工事  
熊胆黒丸子 金のけを以九ス  
婦人つだ虫の妙藥 一包六千兩半包三拾貳  
先後あそひのうりを身ふ用そけうるのうれい  
製芥子 神田明神下  
同朋町東横町 潤澤氏  
弘所元盛昌中塙下南側等の高たれ澤氏

著してて世の婦幼ふ勸懲を書今至て大小  
二言五千種も冗籍る。大凡翁の著書の稿本  
精密なりと真名傍訓ヨリ一ノ文至五六十字  
或四十字を有むわざとて書画の庸秀及廟人の  
良きを擇ひよやぎれり翁の意ふ懶ひ毛疎漏拙  
劣の刻本に比て本房所用の本錢十倍百倍也  
江湖の看官并ふ眞書主人魚目とぞ明  
珠ふ混むと莫耶と鉛刀との價の多か  
よりを亮察考く購ひもんとぞ惟祈りまことに  
己丑麥秋望尙 江戸書賣千翁軒敬白

